葉山小だより

自ら学び　考えて行動できる子

～自立・創造・しなやかな心～

令和７年度
ＮＯ.17
2026.2.19
葉山町立葉山小学校
校長　濵名恵美子

「２月はあっという間に過ぎる」といいますが、気がつけば月の終わりも近づき、今年度も残すところわずかとなりました。各学年では、この１年間の学びを丁寧に振り返りながら、次の学年へ向けた準備を少しずつ進めているところです。

あらためて子どもたちの学習の歩みを振り返りますと、保護者の皆様、地域の皆様、そして関係機関の方々のご協力により、学びを大きく広げることができた１年でした。子どもたちの「やってみたい」という思いを大切にし、さまざまな挑戦を重ねる中で、多くの気づきと成長が生まれました。皆様の温かいご支援に、心より感謝申し上げます。

子どもたちは、多くの方々に支えられて今の自分があることを感じ取り始めています。とりわけ６年生は、その思いを胸に、卒業式を自分たちらしく創り上げてくれることでしょう。引き続き、子どもたちの歩みを温かく見守っていただけますと幸いです。

👆6年１組が葉山中に行って、使用していないベンチをいただきました。
このベンチは、葉山小のビオトープに設置します。※森岡校長撮影

👆5年１組　総合
仙元山の魅力発信
講師：下位氏、松葉氏

👆5年2組　総合
葉山メダカを育てる
講師：葉山メダカの会

葉山夏みかん　プロジェクト（2/2）

夏みかんプロジェクトの方々の取り組みの一環として、給食で使用した「夏みかん」の皮を森戸神社のご協力を得て、お清めの塩に再利用するという企画です。子どもたちの有志を募り、給食で出た夏みかんの皮をきれいにしました。

当日のアナウンスにもかかわらず、たくさんの子どもたちがお手伝いをしてくれました。

体育委員会　目標発表（2/5）スポーツすごろく

朝の集いで体育委員会から発表がありました。体育委員会のみんなが企画したスポーツすごろく。この寒い時期に外で楽しく体を動かして、健康になろうという遊び心を取り入れた企画です。

思いっきり身体を動かして、寒さをふきとばそう！！

葉山小学校ことばの教室：特別支援教育総合研究所主催の実地研修を受け入れました！

葉山小の通級指導教室（実際は４つの小学校から通っている）通称「ことば・きこえの教室」において、国の研究施設、いわゆる特総研が主催する実地研修を受け入れました。

ことばの教室は、特総研の研究協力校というつながりもありますが、全国各地で通級指導の中核を担う先生方を対象に、本校の実践を紹介するという大きなミッションは大変なことだったと思います。

葉山の実践を通して研修員の皆さんと一緒に通級指導教室の見方やあり方を考える良い機会となりました。

★★２年（2/9）・４年（2/6）・５年（2/13）音楽発表会★★

2年生は、学年らしさを発揮し、明るく元気に、そして笑顔で発表することができました。たくさんの保護者の皆様に見守られる中、嬉しさと緊張が入り混じった表情でスタートしましたが、途中からはそんなことも忘れ、楽しみながら表現している姿が印象的でした。初めて挑戦した「和太鼓」ではチームごとにテーマを考え、それに合ったパフォーマンスを披露してくれました。

各チームの「決めポーズ」はとても格好よく、仲間と力を合わせる楽しさがよく伝わってきました。

4年生は、実行委員会の手際よい進行のもと、合唱と合奏の切り替えもスムーズで、見事なパフォーマンスを披露してくれました。特に合奏は、３年生の頃に比べて演奏できる楽器も増え、表現の幅が大きく広がり、迫力ある音色を奏でてくれました。休み時間なども使って一生懸命に練習してきた成果を存分に発揮し、「もうすぐ５年生」という自覚を感じさせる、貫禄ある演奏でした。

5年生は、心に響く歌声と迫力ある合奏で会場全体を魅了しました。アカペラの「赤とんぼ」、そして「瑠璃色の地球」では、優しく包み込むような歌声と美しい高音の響きに思わず聴き入ってしまいました。その余韻に浸る間もなく始まった合奏では、５年生のエネルギーが存分に発揮され、聴きごたえのある演奏となりました。

５年生は一つのものをつくり上げる喜びと、そこに至るまでの過程の大切さをしっかり学んでくれたことと思います。目標に向かって努力する中では、楽しいことばかりではなく、思うようにいかないこともあります。しかし、時には我慢しながらも仲間とともに挑戦を重ねることで、これまで見えなかった景色が見えるようになります。これこそが集団で学ぶことの醍醐味なのかもしれません。

あと少しで、葉山小学校を背負って立つ最高学年になります。これだけの力とエネルギーを持つ学年がどのような６年生になり、どんな葉山小学校をつくっていくのか。「大切なもの」を見つけてください。

2年生　モンゴル講座（2/12）

２年生は、年明けから国語の授業で「スーホの白い馬」を学習しています。こうした学びとの関連もあり、町役場政策課主催による「モンゴル講座」を実施しました。当日は、遊牧民の暮らしや、２年生と同世代の子どもたちが、寒いときには氷点下 40 度近くにもなる厳しい自然環境の中で、たくましく生活している様子などについて、ガイドの西村さんからお話を伺いました。また、カザフスタン人のクグルシンさん、モンゴル人のボルドさんからは、ドンブラやツォール、イギルなどの演奏・歌も披露していただきました。大草原に荘厳に響き渡り、ときには大地の鼓動のように伝わってくる重厚な音色に、子どもたちは聴き入っていました。

その後、子どもたちは馬頭琴の演奏体験を行い、ガイドの西村さんへの質問タイムでは、次々と手があがりました。お話に夢中になって耳を傾ける姿がとても印象的でした。

さらに、この講座に 10 年以上にわたり関わってこられた宮川洋子さんが、昨年 12 月に「天へ帰られた（モンゴルではこのように表現するそうです）」とのお話がありました。宮川さんのご自宅には２台の馬頭琴があり、「家に眠らせるのではなく、葉山の子どもたちに実際に手に取って音を楽しんでほしい」という願いから、そのうち１台を本校へご寄贈いただきました。これから２年生がこの馬頭琴に名前を付け、大切に使わせていただきます。心より感謝申し上げます。